



競い合い・励まし合い・たたえ合い

6月

副校長 武石 博行

5月27日。澄み切った青空の下、「150周年記念金小スポーツフェスタ」が開催されました。保護者の皆様の人数制限をなくしたことで、より多くの方々にご参観いただくことができました。また、しばらく実施できなかった全校競技や団体競技などの得点種目を追加したことで、子どもたちにとっても大いに盛り上がるスポーツフェスタとなりました。

今年度のスポーツフェスタは種目数を増やしたこともあり、24日と27日の2日間で行う分散開催としました。

24日には、全校児童が参加して得点を競う大玉送りを行いました。事前に行った練習では赤組が2連勝でしたが、本番では白組が2連勝という結果でした。

白組が20点のリードで迎えた27日のスポフェス当日は、赤組がすぐに逆転をすると白組がさらに再逆転をするという白熱した展開でした。一人ひとりが自分の力を出し切る個人競技の徒競走や、友達と力を合わせて勝負する団体競技では、どの学年の子どもたちも一生懸命力を出し切って勝負をしていました。競技中の声援や結果が発表された時の歓声、得点板に点数が表示された時に飛び上がって喜ぶ子や残念そうに悔しがる子など、様々な表情を見ることができました。どれも真剣に競い合っているからこそその姿だと思います。

最後の得点種目のリレーでは、1本のバトンをぎりぎりのタイミングで繋ぐ緊張感のあるレースでした。レース終了後、バトンパスがうまくいかなかったのか、落ち込む子もいましたが、それに気付いた同じチームの仲間がすかさず励ます姿がありました。今まで何度も練習を積み重ねてきたからこそその深い絆を感じました。

結果は白組の優勝で幕を閉じました。成績発表で得点が発表された場面。赤組の応援団に目をやると、点数が届かなかったことに当然悔しがっていましたが、すぐさま白組の応援団に向けて拍手でたたえていました。

全力で競い合い、仲間と励まし合い、そして、最後には競い合った相手とたたえ合うことができる金小の子どもたち。150年間引き継いできたこの素晴らしい伝統をこれからも大切にしていきたいと感じたスポーツフェスタでした。